

2026年5月1日

会員企業各位

鋼製建具の試験報告書許諾制度

接着工法薄板鋼製建具（JIS A 4702試験）追加のご案内

（一社）日本サッシ協会
スールドア部会

専務理事 宮村 敬治
部会長 井上 和也



拝啓

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

今般、2025年度事業として鋼製建具の試験報告書使用許諾制度に接着工法薄板鋼製建具についてJIS A 4702の性能試験（三性能、強度および耐久性）を追加しましたのでお知らせいたします。

敬具

< 1 > 経緯

令和4年版公共建築工事標準仕様書より「鋼製建具」の工法として、接着工法が追加されました。接着工法は、従来の溶接工法とほぼ同等の強度と耐久性が確保されており徐々にではありますが、世の中に認知され普及しつつあります。

また、接着工法が可能になったことにより、建具の各部材を薄板化することが可能になりました。建具の薄板化には、以下のような利点があります。

～薄板化による利点～

- ・ 鋼材の使用量を減らしたことによるCO₂排出量の削減
- ・ 建具の軽量化による、作業者の体への負担軽減
- ・ 接着工法+薄板化に伴い、従来の作業者のように性別や専門技術を持った方だけでなく、新たな人材の確保が可能

日本サッシ協会では、扉を構成する表面材・力骨・中骨のすべての鋼板の1.2mm厚で構成する薄板仕様の普及を進めております。その一環で、今回薄板仕様のSDの性能確認を実施しました

＜ 2 ＞概要

1) 性能試験報告書詳細

接着工法を用い、扉の表面材・力骨・中骨の板厚をオール1.2mmで製作した扉を用いて性能試験を実施しました。

試験は、JIS A 4702に記載の性能値について、同JISに記載の引用規格による試験方法に準じて、一般財団法人建材試験センター中央試験所にて試験を実施しました。

○性能試験詳細

項目		
試験体仕様	鋼製片開きフラッシュドア	
サイズ	W950×H2400	
試験項目	開扉力	50N以下
	開閉繰り返し	10万回
	ねじり強さ	200Nで開閉に異常がなく使用上支障なし
	鉛直荷重強さ	500Nで残留変異が3mm以下
	耐衝撃性	砂袋30kg、落下高さ170mm1回の衝撃で有害な変形がなく、開閉に異常がなく、使用上支障なし
	耐風圧性能	S-6
	気密性能	A-4
	水密性能	W-1

※一般財団法人建材試験センター中央試験所で確認。

＜ 3 ＞運用方法

運用規定を順守する覚書を当協会と会員企業とで取り交わします。

※運用規定は最新版（第5版）にて内容をご確認下さい。

- ・協会から使用許諾書、試験報告書及び仕様書を書面にて会員企業へ付与します。
- ・使用料は3万円/件（期間5年間）とし、更新料は5千円/件とします。
- ・許諾を受けた企業には、試験報告書の発行履歴を作成し、更新時に当協会へ提出して頂きます。
- ・許諾を受けた企業が運用規定及び覚書に違反した場合は、是正処置報告書を提出して頂きます。その内容が不十分な場合は、使用許諾の終了を協会から当該企業へ通告し、付与した試験報告書等は返却して頂きます。

※詳細は「鋼製建具の性能試験報告書に関する運用規定」をご参照願います

1) 運用開始

2026年6月1日

以上